

令和 2年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	クラフトでつながる村づくり 手仕事の温もりをつなぐ村づくり
事業主体 (連絡先)	原村観光連盟
事業区分	教育・文化の振興に関する事業
事業タイプ	ソフト
総事業費	447,180 円 (うち支援金: 357,000 円)

事業内容

「まちゼミ」を行い、個々の店舗での手仕事やクラフトをメインとした、村全体の活性化及び普及や次世代への継続、また移住者との関わりを作り、交流人口の増加を目指した。

期間 2月1日～3月10日

参加プログラム 18

参加者 150人程度

また、原村で古くからおこなわれてきた裂き織や手仕事を取り上げ、多くの人に知ってもらうためにイベント開催を計画したが感染症の影響で開催できなかった。

事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

感染症の懸念もあり、村内を重点的に広報したにもかかわらず、ほとんどのプログラムが満席となり好評のうちに終了した。

手仕事がつなぐ、心が豊かになるような場の創設が少なからず出来た。

- ①手仕事を多くの人に知ってもらい今後の継承につながった。
- ②サークルが生まれるなどの地域活性化につながった。
- ③冬場の交流により人間関係が深まった。
- ④交流人口の増加により経済活動が増えた。

今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

自粛疲れもあり、このところのイベントに対する注目度は大きい。

感染による次年度の社会の様子がわからないという中ではあるが、村内の観光事業者の中からは「イベント＝人の流れ」であり、生活の糧であるという声も聴いており、今後も継続を求めていると考える。



【

【目標・ねらい】

- ① 手仕事の継承
- ② 地域活性化
- ③ 冬場の交流
- ④ 交流人口の増加

※自己評価【A】

【理由】

感染の懸念があり、限られた中での開催で不安もあったが、参加者、開催者共に満足の声を多く聞き、改めてこうした試みの大切さを実感した。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」：予定を上回る効果が得られた 「B」：予定していた効果が得られた

「C」：一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある